

発展(1571 年～)

長崎でのキリスト教の広まり

天正遣欧使節団肖像画(京都大学附属図書館蔵)

最初のキリシタン大名、大村純忠は現在の長崎の西部を統治していました。純忠は日葡貿易の重要性を理解していたため、イエズス会に横瀬浦の利用を許しました。その後 1565 年に福田へと港を移し、1571 年にポルトガルとの貿易港として長崎が開港しました。純忠はより繁栄していた長崎の港をイエズス会に寄進し、やがて長崎は、日本の国際貿易における最も重要な港となりました。

純忠の領内にはおよそ 6 万人のキリシタンが住んでいたと言われ、多くの教会も建てられたため、「小ローマ」と呼ばれました。1582 年、純忠等は日本で初めての遣欧使節として、四人の少年たちをローマ教皇とスペインの王、フェリペ 2 世のもとに赴く旅へと向かわせました。